

定期作況報告

(第4号 平成18年8月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

7月下旬：最高気温および最低気温は平年より各々0.6、2.4 低かった。降水量は平年より25.9 少なく、平年対比64%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より24.6時間多く、平年対比155%であった。夏日（最高気温25 以上）は延べ7日で、真夏日（最高気温30 以上）は無かった。

8月上旬：最高気温および最低気温は平年より各々2.8、2.1 高かった。降水量は平年より13.6 少なく、平年対比72%であった。降水日数は平年より3日少なかった。日照時間は平年より13.7時間多く、平年対比132%であった。夏日は延べ9日で、そのうち真夏日は5日であった。

8月中旬：最高気温および最低気温は平年より各々3.4、4.4 高かった。降水量は平年より180 mm多く、平年対比850%であった。降水日数は平年より3日多かった。日照時間は平年より19時間少なく、平年対比64%であった。10日間すべて夏日で、そのうち真夏日は3日であった。

7月下旬から8月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	26.1	26.7	0.6	29.1	26.3	2.8	29.0	25.6	3.4	28.0	26.2	1.8
最低気温()	14.9	17.3	2.4	19.5	17.4	2.1	20.3	15.9	4.4	18.1	16.9	1.2
平均気温()	20.0	21.6	1.6	23.9	21.5	2.4	23.9	20.3	3.6	22.5	21.2	1.3
降水量()	45.5	71.4	25.9	35.5	49.1	13.6	204.0	24.0	180.0	285.0	144.5	140.5
降水日数(日)	4	5	1	1	4	3	6	3	3	11	12	1
日照時間(h)	69.7	45.1	24.6	57.1	43.4	13.7	33.1	52.1	19.0	159.9	140.6	19.3

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

1) 水 稲 : 平年並

事 由：出穂期は各品種・苗とも平年より2～3日遅かった。穂揃いは良好で穂揃い日数は各品種・苗とも平年より1日短かった。最終止葉葉数は成苗「きらら397」が平年に比べ0.4枚多く、中苗「きらら397」および中苗「ほしのゆめ」は平年より0.2～0.3枚少なかった。

稈長は成苗「きらら397」が平年に比べ3cm長く、中苗では平年並からわずかに短かった。穂長は17cmを越え、平年に比べ1cm前後長かった。 当たり穂数は平年対比で81～87%と少なかった。

よって、穂長が長い一穂粒数が平年より多くなることが予想される。また、冷害危険期に低温に遭遇していないこと、穂揃いが良かったこと、および8月上中旬の天候が良好であったため登熟が進んでいることから登熟歩合が高くなることが予想される。これらのことから、穂数が平年より少ないものの減収しないと推測される。

以上より、目下の作況は「平年並」である。

表2 生育期節

品 種 苗	出穂期(月・日)			穂揃い日数(日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	7.29	7.27	2	4	5	1
ほしのゆめ 中苗	7.29	7.26	3	5	6	1
きらら397 成苗	7.27	7.24	3	5	6	1

注1) 平年値は平成11～17年7力年のうち平成13年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5力年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて「早(出穂期)」あるいは「短(穂揃い日数)」を示す。

表3 8月20日現在の本田生育

品 種 苗	最終止葉葉数(枚)		
	本年	平年	比較
きらら397 中苗	11.1	11.3	0.2
ほしのゆめ 中苗	10.1	10.4	0.3
きらら397 成苗	11.5	11.1	0.4

品 種 苗	稈長()			穂長()			穂数(本/)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)
きらら397 中苗	64.1	65.5	1.4	17.1	16.5	0.6	618	712	94	87
ほしのゆめ 中苗	69.9	70.0	0.1	17.1	15.8	1.3	636	779	143	82
きらら397 成苗	67.9	64.9	3.0	17.6	16.5	1.1	594	733	139	81

注1) 平年値は平成11～17年7力年のうち平成13年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5力年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて「減」を示す。

2) 秋まき小麦： 不良

事由：成熟期は、平年より4日遅かった。リットル重と千粒重は平年よりやや重かったが、穂数、総重が平年を下回り、子実重は平年比91%と低収であった。

したがって、目下の作況は不良である。

表4 秋まき小麦の収量

品 種 名	成熟期(月日)			リットル重 (g)			千粒重(g)			穂数(本/)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ホクシン	7.21	7.17	4	788	772	16	37.3	36.3	1.0	604	664	60

品 種 名	総 重 (kg/10a)			子 実 重 (kg/10a)			子実重平年比 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ホクシン	1331	1513	182	564	621	57	91	100	9

注1) 平年値は、前7か年中、平成13年、14年(収穫年度)を除く5か年の平均値

2) は平年より減を示す。

3) 大 豆 ： やや良

事由：8月は高温に経過しているため、莢の登熟は平年より進んでいる。主茎長、主茎節数は平年並、分枝数は平年よりやや少ないが、着莢数は平年を上回っている。

したがって、目下の作況はやや良である。

表5 8月20日の大豆の生育

品 種 名	主 茎 長 ()			主 茎 節 数(節)			分 枝 数(本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	64	61	3	10.4	10.2	0.2	6.8	7.5	0.7
トヨコマチ	66	63	3	11.1	10.9	0.2	6.6	6.9	0.3
ユキホマレ	60	63	3	10.2	10.9	0.7	5.7	6.6	0.9

品 種 名	着 莢 数(個/株)		
	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	102	85	17
トヨコマチ	100	82	18
ユキホマレ	100	86	14

注1) 平年値は前7か年中、平成14年、17年を除く5か年の平均値。ただし、「ユキホマレ」については平成13年から17年の5か年の平均値で、参考値である。

2) は平年より減を示す。

4) 小豆 : 平年並

事由: 開花期は、「サホロショウズ」は平年並みであったが、「エリモショウズ」は4日遅かった。8月に入り高温に経過したため生育は概ね順調であり、本葉数が平年よりやや少ないが、主茎長、分枝数は平年並である。なお、8月4日に強い風雨があり、両品種とも著しく倒伏した。したがって、目下の作況は平年並である。

表6 8月20日の小豆の生育

品 種 名	開花期(月日)		
	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	7.20	7.20	0
エリモショウズ	7.26	7.22	4

品 種 名	主 茎 長 ()			本 葉 数 (枚)			分 枝 数 (本 / 株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	66	68	2	11.4	11.8	0.4	6.1	6.1	0
エリモショウズ	66	64	2	12.0	12.4	0.4	6.1	6.1	0

注1) 平年値は、前8か年中、平成15年(最豊)、平成16年(最凶)及び平成12年(茎疫病発生)を除いた5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

5) ばれいしょ : やや良

事由: 8月は高温に経過しているため、枯凋は進み、全ての個体が倒伏、黄変し枯葉も多くみられる。過去6年間の試し掘りの結果と比較すると、株当たり上薯数は並みで、10a当たり上薯収量は20%程度多く、澱粉価は並みである。しかし、今季の断続したスコール状の降雨により表土が流されており、緑化いもの割合が多くなることが懸念される。

したがって、目下の作況はやや良である。

表7 8月20日のばれいしょの生育

品 種 名	茎長(cm)		
	本 年	平 年	比 較
男爵いも	59.5	47.4	12.1

注1) 平年値は、平成6~9、11、15~16年の7か年の平均値であり、参考値である。